

■日時 平成30年8月18日(土) ■天候 晴れ

日本ウェルネス高等学校 通信制 対 天理高等学校

■球場 明治神宮野球場 第1試合 決勝戦 ■試合時間 1時間49分 ■備考

■審判 球審:大和 塁審:竹本 仲田 松山

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
日本ウェルネス・通	東京2	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	1	2
天理	近畿・奈良	2	4	1	1	2	3	1	2	x					16	17	0

日本ウェルネス・通		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	投	遊		津澤拓実	4	0	0	0	二ゴ	遊飛			一ゴ			中飛					
2	二			小松拓毅	4	0	0	0	投ゴ	三振			三併			三ゴ					
3	一			坂元レオ	2	0	0	0	四球			投ゴ			一ゴ						
4	遊	三		中山隼	3	0	0	0	一飛			右飛			左飛						
5	中			大城海人	3	0	0	0		三振	左飛				三振						
6	捕	左		東龍	3	0	0	0	遊ゴ				三振			三ゴ					
7	左	捕		富山義士	2	0	0	0	四球				左飛			二飛					
8	右			金木脩祐	1	0	0	0	一ゴ												
8		打	右	老田翔	2	0	0	0					三振			三振					
9	三	投		南馬僚介	3	0	1	0			遊直			中安			左邪				
合計					27	0	1	0	残塁:2 併殺:0												
備考																					

■バッテリー

投手
津澤拓実
南馬僚介
津澤拓実

捕手
東龍
富山義士
東龍
富山義士

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤拓実	2	14	6	0	2	6
南馬僚介	5	30	9	0	7	8
津澤拓実	1	6	2	0	1	1

天理		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	中			窪田正喜	5	2	3	1	中2	左安		二ゴ	二飛	左安							
1		投		堀部陸	0	0	0	0													
1			打	清水勇人	1	0	0	0								二ゴ					
1			右	椿井友哉	0	0	0	0													
2	右		中	平野雄大	1	2	0	0	投犠	中飛		四球	四球	四球		四球					
3	三		遊	岡田民生	5	2	4	4	四球	中3		中安	中安	遊飛		三安					
4	左			森口信宏	5	1	2	3	左2	遊飛		左飛	中飛		四球	中安					
5	遊			片山幸輔	3	0	0	0	捕犠	投ゴ		四球		一ゴ	一ゴ						
5			三	西川道男	1	0	0	0								投ゴ					
6	一			浅見紫歌	3	2	1	0	二飛		四球	三ゴ		左安							
6		打		高柳枝理	1	0	1	0								三安					
6			一	内山理弘	0	0	0	0													
7	投	中		伊藤慎介	4	2	2	0		四球	投ゴ		左2	左安	遊ゴ						
8	二			邊田三嗣	4	3	3	3		左安	一ゴ		四球	中安	左2						
9	捕			原田成人	5	2	1	1		中安	遊ゴ		遊ゴ	遊ゴ		三ゴ					
合計					38	16	17	12	残塁:10 併殺:0												
備考																					

■バッテリー

投手
伊藤慎介
堀部陸
伊藤慎介

捕手
原田成人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
伊藤慎介	6	20	1	4	2	0
堀部陸	2	6	0	2	0	0
伊藤慎介	1	3	0	0	0	0

■戦評

この夏を象徴するような青空と暑さの中、神宮球場で行われた65回大会の決勝戦は初出場初優勝を目指す日本ウェルネス高校・通信制と12年連続15回目の優勝を目指す天理高校の顔合わせとなった。両チームは1回戦から試合をしており今大会は順調に大会が消化したため、どちらも4日間で5試合目の試合が決勝の舞台となった。天理は初回先頭の窪田が二塁打で出塁すると手堅く犠打で送る。続く3番岡田が四球を選びすぐさま二盗を決め二三塁とすると4番森口が適時二塁打を放ち2点を先制する。続く2回8番邊田からの三連打などにより4点を追加する。流れを変えた日本ウェルネスは3回から2番手南馬をマウンドに送るが天理の勢いは止まらず3回4回5回と追加点を取り5回を終えて10-0と大差をつける。天理先発伊藤の前に5回まで無安打に抑えられていた日本ウェルネスは6回先頭の9番南馬がチーム初安打を放つが後続が内野ゴロと併殺打に倒れ走者を進めることさえできない。その後も毎回得点を重ね8回までに16点を奪った天理は最終7回から2番手堀部にマウンドを譲っていた主戦伊藤が再び登板すると日本ウェルネス打線を三者凡退に抑え今年もまた頂点にのぼりつめた。今大会5試合合計で打っては54安打53得点、守っては5被安打2失点1失策と全く隙の無い野球で他校を圧倒した天理が連覇の数を「12」に伸ばし4日間の熱戦は幕を閉じた。一方惜しくも初出場初優勝を逃した日本ウェルネスだが、上位打線を中心に高い攻撃力と積極的な走塁で得点を奪う野球で優勝した天理同様に大会を大いに盛り上げたことを最後に記しておく。